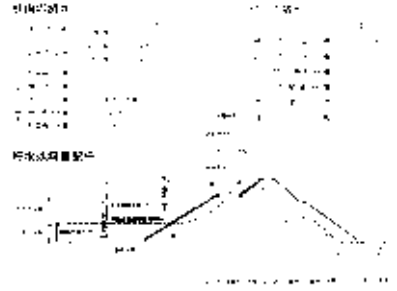


狭山池ダム建設事業

受賞機関 大阪府富田林土木事務所

はじめに

狭山池は大阪平野南部の一級河川大和川水系西除川中流部に位置し、古事記や日本書紀にも記述が見られる日本最古のダム形式のため池であり、現在でも灌漑用ため池として利用されている。飛鳥時代西暦616年頃に堤体が築かれて以来、幾度となく洪水や地震により被災したが、その都度大改修が行われてきた。その中には行基、重源、片桐且元といった歴史上の人物が登場している。今回の狭山池ダム建設事業は、都市化が進展する下流域の抜本的な治水対策の一環として狭山池に洪水調節機能を付加するために実施したもので、平成の大改修と称している。



狭山池ダム全景

事業の概要

- 計画降雨強度：1/100 77.7mm/h 242.3mm/24h
- 計画高水流量：230m³/s
- 洪水調節機能：100m³/s・自然調節方式
- ダムの形式：均一型フィルダム
- ダムの堤体：堤高18.5m、堤頂長750m
- ダム湛水面積：0.36m²、ダム貯水容量：280万m³
- 内洪水調節容量：100万m³
- 事業期間：昭和61年度～平成12年度
- 事業費：約447億円
- 工事内容：堤体改築、池床掘削、ダム施設改築

事業の特徴

年次	内容	担当者
昭和61年度	堤体改築工事	富田林土木事務所
昭和62年度	池床掘削工事	富田林土木事務所
昭和63年度	ダム施設改築工事	富田林土木事務所
昭和64年度	堤体改築工事	富田林土木事務所
昭和65年度	池床掘削工事	富田林土木事務所
昭和66年度	ダム施設改築工事	富田林土木事務所
昭和67年度	堤体改築工事	富田林土木事務所
昭和68年度	池床掘削工事	富田林土木事務所
昭和69年度	ダム施設改築工事	富田林土木事務所
昭和70年度	堤体改築工事	富田林土木事務所
昭和71年度	池床掘削工事	富田林土木事務所
昭和72年度	ダム施設改築工事	富田林土木事務所
昭和73年度	堤体改築工事	富田林土木事務所
昭和74年度	池床掘削工事	富田林土木事務所
昭和75年度	ダム施設改築工事	富田林土木事務所
昭和76年度	堤体改築工事	富田林土木事務所
昭和77年度	池床掘削工事	富田林土木事務所
昭和78年度	ダム施設改築工事	富田林土木事務所
昭和79年度	堤体改築工事	富田林土木事務所
昭和80年度	池床掘削工事	富田林土木事務所
昭和81年度	ダム施設改築工事	富田林土木事務所
昭和82年度	堤体改築工事	富田林土木事務所
昭和83年度	池床掘削工事	富田林土木事務所
昭和84年度	ダム施設改築工事	富田林土木事務所
昭和85年度	堤体改築工事	富田林土木事務所
昭和86年度	池床掘削工事	富田林土木事務所
昭和87年度	ダム施設改築工事	富田林土木事務所
昭和88年度	堤体改築工事	富田林土木事務所
昭和89年度	池床掘削工事	富田林土木事務所
昭和90年度	ダム施設改築工事	富田林土木事務所
昭和91年度	堤体改築工事	富田林土木事務所
昭和92年度	池床掘削工事	富田林土木事務所
昭和93年度	ダム施設改築工事	富田林土木事務所
昭和94年度	堤体改築工事	富田林土木事務所
昭和95年度	池床掘削工事	富田林土木事務所
昭和96年度	ダム施設改築工事	富田林土木事務所
昭和97年度	堤体改築工事	富田林土木事務所
昭和98年度	池床掘削工事	富田林土木事務所
昭和99年度	ダム施設改築工事	富田林土木事務所
平成00年度	堤体改築工事	富田林土木事務所
平成01年度	池床掘削工事	富田林土木事務所
平成02年度	ダム施設改築工事	富田林土木事務所
平成03年度	堤体改築工事	富田林土木事務所
平成04年度	池床掘削工事	富田林土木事務所
平成05年度	ダム施設改築工事	富田林土木事務所
平成06年度	堤体改築工事	富田林土木事務所
平成07年度	池床掘削工事	富田林土木事務所
平成08年度	ダム施設改築工事	富田林土木事務所
平成09年度	堤体改築工事	富田林土木事務所
平成10年度	池床掘削工事	富田林土木事務所
平成11年度	ダム施設改築工事	富田林土木事務所
平成12年度	堤体改築工事	富田林土木事務所

ダム建設工事に伴い狭山池1400年の歴史を物語る大型土木遺構が数多く発見された。堤体断面には飛鳥時代から現代に至るまでの改修の経過が明確な層となって現存しており、石棺を利用した樋や木製の樋、檜の葉のついた枝を多重に敷きつめて盛土した敷葉工、法面の木製枠工など、当時の土木技術を伝える貴重な遺構であることが調査により判明した。

そのため、実物に保存処理を施して大阪府立狭山池博物館に展示し後世に継承することとした。堤体（高さ15m底幅60m）については101個の土ブロック（1ブロック長さ3.0m高さ1.5m厚0.5m）にして切り取り樹脂含浸処理後、博物館内の免震構造の展示架台に再現した。大規模な土構造物の遺構の保存は世界でも初めてである。

また、地域の歴史的シンボルとしての狭山池を人々の憩いの場となるよう治水施設の整備とともに自然石護岸、一周約3kmの桜並木の遊歩道、干潟等の環境整備も行っている。

受賞賛助会員 (株)大林組、大林道路(株)大阪支店、(株)奥村組関西支社、(株)建設技術研究所大阪支社、(株)酒井鉄工所大阪支店、佐藤工業(株)大阪支店、(株)横河メンテック大阪支店